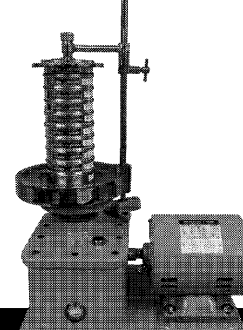


JIS試験用ふるい&ふるい振盪機の専門メーカー



ES-65型の特徴

- 1.ロータップ型の運動状態を応用しておりますので効率が高いです。
- 2.最小内径75mmのふるいまで使用出来ます。
- 3.小型で研究室から研究室への移動が容易に出来ますので、使用して頂く研究室相互の間で兼用出来て経済的です。



実用新案型ふるい

金網と枠部が一体構造になっています。



株式会社 飯田製作所 URL <https://www.iida-ss.com/>

新薬という、希望を。



Kyorin 杏林製薬株式会社

健康はキョーリンの願いです。

政府は創薬や先端医療分野に、2040年度までに官民で総額64兆円を投資する方針を示した。創薬シーズの創出から実用化まで一気通貫で進める体制を構築し、「世界直行型」の開発による海外市場の獲得を目指す。気候変動などの影響で感染症リスクが高まる中、感染症対応に必要な製品の国内生産体制や備蓄の強化も掲げた。国内外から投資や人材を呼び込み、国民の健康維持と医薬品産業の成長につなげる。

健康と安心を支える 製薬産業

ごあいさつ 日本製薬団体連合会 会長 安川 健司



社会保障制度の再設計を急げ

製薬産業の使命は、高品質な医薬品を安定的に届けることにあり、新しい治療法を生み出し、国民の健康と安心を支えることです。医薬品は重症化を防ぎ、働き続ける力や家族との生活を支える社会基盤です。

一方で、原薬・原材料の調達や製造・物流の混乱による供給不安に加え、薬価制度の見直しが進む中、日本市場の予見性や魅力が低下しています。その結果、海外で使える新薬が日本では使えない、または導入が遅れる「ドラッグ・ラグ/ロスは課題となっており、患者とその家族にとつて切実な問題です。こうした問題の根底に、その力となるのが、医療・介護・健診などに分散するデータの統合・分析と活用です。例えば骨粗しょう症は、自覚症状が乏しいまま進行し、転倒や骨折をきっかけに要介護状態になってしまうことがあります。しかし、早期発見に有効な骨密度検査の受検率は低く、リスクを抱えた人が十分に把握できていません。検査で早期にリスクを見つけ、適切な治療や運動指導につなげれば、将来の骨折や入院・介護を減らせる可能性があります。

短期的には費用増があっても、長期的には生活の質の向上や介護負担の軽減、就労継続などにつながり、社会全体に恩恵をもたらすことが期待できます。このような視点は、認知症や糖尿病、心血管疾患などにも共通します。産官学・医療界と患者・国民が同じテーマに基づいて課題を共有し、予防から早期診断、治療、介護までを一体で設計することが必要です。

社会保障制度の再設計は単なる財政論ではなく、誰もがに必要な医療にアクセスし、健やかに暮らし続けるための基盤づくりです。政府のリーダーシップのもと、データに基づく政策立案と実行を加速する必要があります。



官民で創薬分野への投資を加速する（霞が関の官庁街）

創薬・先端医療分野の2040年度までの官民投資額(想定)

①ファーストインクラス製品・ベストインクラス製品(医薬品、再生医療などの製品)	23兆4000億円
②感染症対応製品	7兆2000億円
③バイオ医薬品・再生医療などの製品	20兆8000億円
④革新的デバイス(AI、ロボティクスなど)を活用した先端医療	11兆6000億円
⑤ライフログデータなどを活用したヘルスケア関連サービス	1兆1000億円

(内閣官房の資料を基に作成)

研究開発・国内製造施設整備を強化

ワクチンや治療薬などの感染症対応医薬品は、感染症流行時に需要が急増するものの、平時は需要が低く収益が見込みにくい。このため製薬会社が安定的に生産体制を維持するのが難しい。また、抗がん剤の原薬は大部分を中国など特定国からの輸入に依存しており、海外からの供給が途絶えれば必要な治療ができなくなる恐れがある。

そこで原薬や原材料を含め、研究開発や国内製造施設の整備への投資強化を掲げた。また、製薬会社の抗がん剤の原薬、原材料の備蓄のほか、重症感染症の治療に用いる免疫グロブリンの原料となる血漿の確保体制強化を支援する。

これにより抗がん剤などで国際的な事業承認により25カ国以上への展開を目指す。免疫グロブリンは国内自給率を100%に引き上げる。また、次の感染症の流行に備えて全国民分のワクチンを確保するほか、製薬企業での抗がん剤の原薬、原材料の備蓄を6カ月分確保する目標も掲げた。平時から一定量の備蓄を確保し、供給途絶リスクに備える。

政府の試算では、官民投資により40年度までにFIC・BIC製品で162兆1000億円、感染症対応製品で29兆2000億円の経済効果を見込む。

10日に開いた創業力向上のための官民協議会で高市早苗首相は「官民一体で医薬品産業・創薬を進展させる取り組みを進めるため、日本成長戦略に基づき具体的な議論を検討を行う新たな官民での協議の場を設けたい」と述べた。官民一体で議論を加速させ、投資の具体化につなげる。

政府、40年度まで官民投資64兆円

また、27年度当初予算から「強く豊かな日本」投資枠を創設し、各省庁からの予算要求に上限を設けず、必要な額を要求できるようにする。複数年度の計画に基づく投資を基本とし、企業の予見可能性を高めることで民間投資を活性化させる。

創薬・先端医療分野ロードマップ策定

日本成長戦略では、創薬を含む戦略分野への国内投資を加速するため、ターゲットとなる62項目の製品・技術を選定。それぞれの具体的な目標や勝ち筋、官民投資の具体像を盛り込んだ「官民投資ロードマップ」を策定した。

創薬・先端医療分野では、ファーストインクラス・FIC製品・ベストインクラス(BIC)製品、感染症対応製品、バイオ医薬品・再生医療製品、AI(人工知能)やロボティクスなど革新的なデバイスを用いた先端医療、ライフログデータ

などを活用したヘルスケア関連サービスに焦点を当てた。FIC製品は全く新しい作用を持ち、世界で初めて承認される医薬品。BIC製品は同じ作用の医薬品の中で最も有用性が高いものを指す。世界の医薬品市場は22年時点ですべて約200兆円。そのうち、FIC・BIC製品は有効性・実現可能性を限定すると、日本を除く先進国では年平均9・6%で市場が拡大し、今後も成長が見込まれる。一方、日本は世界有数の新薬創出国だが、新薬の実用化に関わる人材不足や試験実施体制、創薬ス

ターゲットアップの資金不足などの課題を抱える。工程表では、世界の医薬品市場の約6割を占める日米欧の同時承認を目指すほか、日本の特許品市場を世界と同等の成長率に引き上げる目標を掲げた。その実現に向け、製薬会社やスタートアップが臨床初期段階で新薬の有効性・実現可能性を確認する概念実証(POC)までの研究開発や設備投資、国内での国際共同試験への投資、製造設備への投資を重点的に支援する。

政府の試算では、官民投資により40年度までにFIC・BIC製品で162兆1000億円、感染症対応製品で29兆2000億円の経済効果を見込む。

認知症に、新しい答えを。

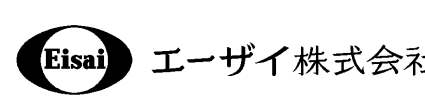


認知症に、向き合う人がいます。自分だけでなく大切な人のためにも、早期受診を決意する。どれだけ勇気があることでしょうか。万一のときは大きなショックを受けるかもしれない。それでも、向き合うことを選ぶ。

私たちは、そんな勇者たちとともに立ち向かい、問い続けてきました。そしてたどり着いた、新しい答え。アルツハイマー病の原因に直接アプローチする世界初の治療薬。でも、まだまだゴールじゃない。

薬だけに頼らない、認知症予防策。企業や自治体と連携し、健康な状態から最期の時までその人らしく生きることを支える社会の構築。そして、認知症を根本から克服するための創薬研究。

私たちはこれからも問い続け、答え続ける。すべての人が認知症を乗り越えられる、その日のために。



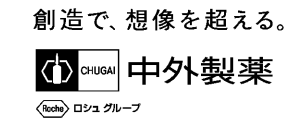
未来を変える薬。



地球には、薬でアプローチできない病気がまだ半数以上あるらしい。けれど中分子という新たな技術を使えば、これまで手が出せなかった病気に立ち向かえるようになるという。

できそうもない、だからつくるんだ。

創造で、想像を超える。



Chugai 中外製薬

ロシュグループ

理解促進・適切な診療確立へ

疾患啓発

製薬企業の役割は、医薬品の開発や供給だけに留まらない。社会に向け、疾患への正しい理解を促すことも重要な責務だ。製薬企業は、疾患の理解促進やより適切な診療の確立に向け、産学官での連携に乗り出す。また進展する高齢化も大きな社会課題だ。製薬企業は、医薬品の実用化に加え、利便性の向上に取り組む。

肥満症

肥満症とは体格指数（BMI）が25以上の肥満とは明確に区別され、治療が必要な疾患を指す。肥満症はさまざまな疾患の発症や悪化の引き金となるリスクがあり、

企業と国内トップクラスの研究機関がタッグを組み、肥満症の研究や診療、また教育や社会における理解促進に一体的に取り組む体制を構築する。

肥満症

日本イーライリリー（神戸市中央区、カール・アルカサル社長）は6月、国立健康危機管理研究機構（JIH）と国立循環器病研究センターと共同で、肥満症対策の推進に向けた共同研究の協定を結んだ。大手製薬

産学官協業で治療薬研究

近年は医薬品による治療の重要性が注目される。虎の門病院（東京都港区）の門脇孝院長は、

「肥満症の治療が十分行われていない状況で、血糖を下げたり血圧を下げるといった対症療法を行

つても、問題が解決せずに医療費が増えるということにも注目すべき」と強調する。

共同研究では、肥満症治療薬の効果と影響を評価する実臨床の研究と、肥満症に関連する疾患の発症メカニ

スムの解明、循環器の老化や循環器疾患への影響を明らかにする病態の研究を実施する。

肥満症治療による医療費増大への懸念も上がる中、研究では関連疾患の改善による医療費削減や患者のQOL（生活の質）向上といった長期的な効果にも目を向け、エレブディスを構築する。

世界では肥満症治療薬の実用化が進み、米イーライリリーは肥満症治療薬「アカクゴ」の共同研究を結んだ。

認知症

皮下注射剤の使用拡大・承認取得へ

エーザイが米バイオエント共同開発した早期アルツハイマー病（AD）

エーザイは皮下注射剤「レクエンビアイクリック」の実用化を進める。



治療薬「レクエンビ（一般名、レカナマブ）」は、同疾患の治療を大きく変

リリーの肥満症治療薬「ゼツパウンド（一般名、チルセパド）」やデンマークの製薬大手ノボルティス社の「ウゴービ（同セマグルチン）」などが発売されて

いる。イーライリリー米本社でのデベロップ・A

えた医薬品だ。同薬は脳内に蓄積した「アミロイドベータ（Aβ）」を除去する。2023年に米国、さらに日本でも承認取得し、市場拡大とシェア拡大が大きな眼

目に、アイクリックが徐々に静脈注射を超えるだろう」と強調する。日本や中国においても申請中

で、皮下注射剤が使用できる地域は今後増える見通しだ。

製薬企業は新薬を発売するだけではなく、いかに医薬品の価値を最大化するかに注力する。社会に広く疾患を知ってもらうことや医薬品の利便性を高めることで、適切な治療へとつながる。

米国では7月、初期療

新しいモダリティの実用化進む

新薬 最前線

新薬の実用化で、これまで治療が難しかった疾患に新たな選択肢が生まれる。希少疾患は治療に限られることが多くアンメットメディカルニーズ（未充足の医療ニーズ）が高い領域だ。新しいモダリティ（治療手段）の医薬品の実用化が進み、疾患や症状の原因に働きかける治療法が生まれつつある。製薬企業は革新的な医薬品で、患者への貢献を目指す。

遺伝子

中外製薬は2月、国内初となるデュエンヌ型筋ジストロフィー（DMD）製薬大手ロシュが開発の治療を対象とした遺伝子治療薬「エレブディス」を発売した。1回投与によりDMD治療を可能とした同剤は、3億円超という価格も注目を集めた。遺伝子治療薬のような新たなモダリティはこれまで治療が困難だった疾患に希望をもたらす。疾患の治療や進行の抑制などによる長期的な医療費の軽減など、



中外製薬のDMD治療薬「エレブディス」

再生医療

細胞増殖を促し機能回復

国内で再生医療の社会実装が進む。再生医療の開発を手がけるサンバイオは、5月、外傷性脳損傷（TBI）に伴う慢性期の運動まひの治療を対象とした細胞治療薬「アカクゴ（一般名、バンデフィテムセル）」を発売

した。TBIは、交通事故や転倒といった日常的な要因で起きる。手足のまひなどの「運動機能障害」といった障害を伴うこともあるが、受傷から半年を過ぎると有効な治療法がなくなるため、アンメットメディカルニーズが



サンバイオの細胞治療薬「アカクゴ」

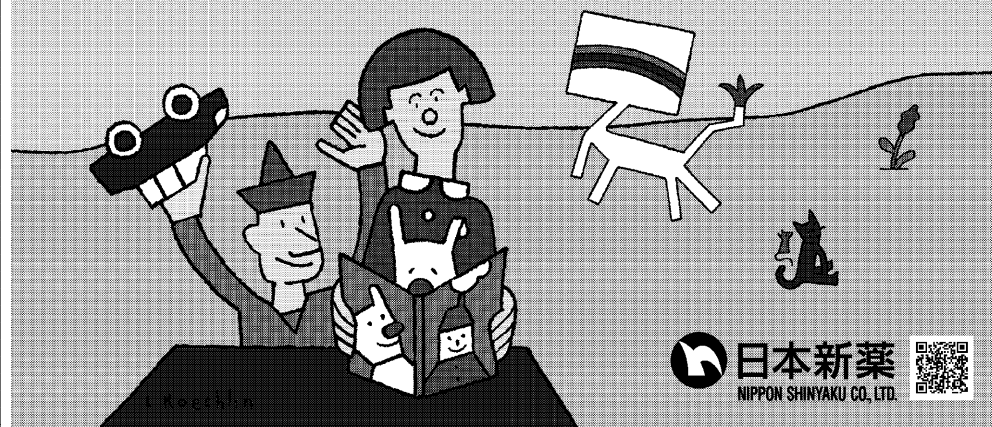
高かった。サンバイオの森敬太社長は「受傷後6カ月以上の患者は、その後何年たっても回復しない」と説明する。アカク

ゴは、他家由来の間葉系幹細胞を培養、神経再生能力を高める遺伝子を導入して作製した再生医療等製品だ。脳の損傷部位の周辺に投与し、損傷した細胞の栄養となる因子や細胞増殖を促すことで、機能の回復を図る。

アカクゴの臨床試験において、実際に細胞を投与した群では、発症から10年以上たった患者でもまひの改善が見られた。臨床試験に携わった北海道大学医学研究科神経外科の川堀真人医師は患者の回復の度合いについて「イメージとしては、アカクゴの投与とリハビリによって、車いすをメインで使っていた人がついで移動できるようになり、つえを使っていた人が階段を登れるようになる」と説明する。

再生医療の社会実装は、患者だけでなく介護や経済的な負担の軽減への期待も高い。世界的にも市場の成長が見込まれる中、日本は強みを発揮し、再生医療の領域で存在感を示す。

新しい生きるを、創る。



日本新薬
NIPPON SHINYAKU CO., LTD.

医療・健康ニーズに応える



人類の健康・福祉に貢献することが私たちの使命です。



持田製薬株式会社
https://www.mochida.co.jp/

生命支えて、生命育む



私たちは、いのちを支える、なくてはならない医薬品をつくり続けます。

扶桑薬品工業株式会社

かけがえのない命のために、 たくさんの笑顔と出会うために

美しい自然と人の暮らしが響き合う、まるでシンフォニーのように。キッセイ薬品はこの信州で、新薬の研究開発に取り組んでいます。



https://www.kissei.co.jp



がんと戦う人に
新たな選択肢と、
希望を。

がん免疫分野への挑戦。それは、がんと戦う人に新たな希望をもたらすために始まった。そしてこの先も、私たちは止まらない。次の希望をこの世に生み出すそのために。

BREAK
THROUGH
ONOは挑戦で、未来を築く

小野薬品工業株式会社